

1月16日 午後

ホアビン省タンラック県ナムソン村人民委員会での聞き取り

ナムソン村人民委員会主席、村作り委員会副主席を兼務するチュエン氏から話を聞いた。ナムソン村の人口は過去には2000人ほどの時期もあったが、現在は1530人（320世帯）ほどで、人口減少の大きい原因は農業で生計をたてるのが難しいからという。ごく少数を除いて、ムオン族である。経済的には未だ約30%が貧困ライン以下の世帯である。

村の環境は10年前と比較すると、大きい変化があった。国によるインフラの整備である。この10年間で、電気がひかれ、道がつながり、それまであった小学校に加えて幼稚園、中学校も作られた。ほぼ全ての子供が学校を辞めずに通っている。現在でも村に対する政府の投資は継続しており、135プログラム、134プログラム、貧困削減政策、さらにはNGOであるJVCの斡旋（村の紹介）なども行い、様々なプログラムが実施されている。

これまで5年間続けられているJVCの活動は大きな成果を上げたといえる。JVCは環境保全型で生産性の高い農業技術を移転し、それを通じて村の人々の能力向上を行った。また、グローバリゼーションの中での自分達の位置を自覚させるような取り組みも行った。すなわち、「環境が守られなければ食料は生産できず、食料が生産できなければ村の未来はない」ということである。このようなJVCの成功の鍵は、丹念に村人の声を聞き、頻繁に家々に足を運び、村人と共に計画、実施、モニタリングを行ったことにあっただろう。

所感としては、この10年間の変化はものすごく大きい。このような場所で体験することができ、国際情勢が分かるようになった。目標は大きく二つあり、自分たちの食糧を確保することと、「持続的な農業」をすることである。しかしそれはすべて環境や自然を考え、守っていくことを前提にしている。

（記録：李美智）